

# 中学校歴史教育におけるメタヒストリーに基づく 「身近な地域の歴史」の学習

A Learning Unit on Local History centered on Meta-History Studies  
in History Education at Lower Secondary Schools

服部 一 秀\* 矢ヶ崎 憲\*\*  
HATTORI Kazuhide YAGASAKI Ken

**要約：**本稿は、中学校社会科歴史的分野の「身近な地域の歴史」におけるメタヒストリー学習の新たな可能性について、具体的な学習指導計画「身近な地域のなかの武田信玄」を通して明らかにするものである。「身近な地域のなかの武田信玄」では、中学校の生徒が地元で英雄視されている歴史上の人物を扱った現在の様々な事物について取り組む。そのための手段として、その歴史上の人物の業績と当時の時代動向についてもとらえる。これはヒストリー学習を一環とするメタヒストリー学習であり、現在の身近な地域における歴史の為され方を生徒が分析検討する地域探究としての新たな「身近な地域の歴史」の学習を可能にするものである。

**キーワード：**メタヒストリー、社会のなかの歴史、「身近な地域の歴史」、歴史的分野、中学校

## I はじめに

本稿の目的は、中学校の生徒がヒストリー学習を手段にして身近な地域のなかの歴史について取り組むメタヒストリー学習としての「身近な地域の歴史」の学習指導計画を開発し、社会科歴史的分野におけるメタヒストリー学習の新たな可能性について提起することである。

中学校社会科の歴史的分野では、過去について取り組むヒストリー学習だけでなく、過去を扱った既存の歴史について取り組むメタヒストリー学習も必要である。しかも、そのメタヒストリー学習においては、歴史ドラマ、歴史映画、歴史小説、歴史マンガ、歴史祭り、歴史ツーリズム、歴史展示、紙幣の肖像、記念日、記念行事、記念演説など、社会に溢れる広義の様々な歴史が取りあげられるべきである<sup>1)</sup>。殆どの生徒が生涯にわたってかかわることになる歴史とは、これら社会のなかの歴史である。それらは過去の事柄を扱っているが、現在の理解や未来の志向と結びついており、今日の社会のなかでつくられたり、つかわれたりする一方、現在の人々の意識や判断に働きかけ、社会を新たにうみだす作用をもつ。そのような社会に遍在する歴史の有り様を分析したり、在り方を吟味検討したりできることは、それらに呑み込まれずに自らの歴史認識を築いていくために必要であるだけでなく、社会の認識や新たな形成の一環として重要なことである<sup>2)</sup>。

尤も、社会のなかの歴史は、自国という国レベルの過去の事柄について扱ったものばかりではない。身近な地域という地域レベルの過去の事柄について扱ったものも、身のまわりに数多く存在している。そうであるならば、メタヒストリー学習はナショナルヒストリーに関してだけでなく、ローカルヒストリーに関しても行われるべきである。それを実際にねらうことができるのは、中学校社会科の歴史的分野の場合、内容項目「身近な地域の歴史」<sup>3)</sup>によってであろう。

\*教育実践創成講座 \*\*北杜市立小淵沢中学校

「身近な地域の歴史」においてメタヒストリー学習を構想する場合、いくつかの選択が必要となる。例えば、地域の過去について扱う特定の事物（媒体・手段）の分析検討を学ばせるのか、地域の特定の過去について扱う様々な事物（媒体・手段）の分析検討を学ばせるのかは重要な選択である。何をねらうのかが異なれば、対象の設定の仕方も異なってくる。また、特定の事物（媒体・手段）による取り扱いの分析検討にしる、地域の特定の過去についての取り扱いの分析検討にしる、分析検討の能力育成に向け、教師主導で考察にあたらせるに留めるのか、生徒主体の考察まで可能にするのかも大切な選択である。どこまでねらうのかが異なれば、学習の方法や過程も異なってくる。さらに、身近な地域の過去に関するヒストリー学習と過去の取り扱いに関するメタヒストリー学習とをどう両立させるかも蔑ろにしてはならない選択である。ヒストリー学習を前提にしてメタヒストリー学習へ移行させること、メタヒストリー学習の一環にヒストリー学習を組み込むことなど、両学習の何れに比重をおくかで両学習の関連のさせ方や単元の基本構成は異なってくる。これらの選択は一概にはできないものであり、歴史的分野の教育課程全体におけるメタヒストリー学習の展開や「身近な地域の歴史」の位置づけなどによって多様となるはずである。メタヒストリー学習としての「身近な地域の歴史」の学習のいろいろな可能性を検討することが求められよう。

「身近な地域の歴史」におけるメタヒストリー学習の先行研究として、単元「信玄公祭り」の開発研究<sup>4)</sup>などが挙げられる。単元「信玄公祭り」は歴史祭りという特定の事物（媒体・手段）を取り上げ、教師主導で分析検討にあたらせるものである。ヒストリー学習の要素は殆ど入れられておらず、基本的に先行のヒストリー学習を前提にしたメタヒストリー学習として設計されている。そこで本稿では、別の可能性を探るため、身近な地域の特定の過去について扱う事物（媒体・手段）の分析検討を学ばせることをねらい、様々な事物（媒体・手段）を取り上げ、ヒストリー学習を手段にしたメタヒストリー学習に教師主導で取り組ませるだけでなく、生徒主体の分析検討も可能にする「身近な地域の歴史」の学習の在り方について、具体的な学習指導計画を通して明らかにしたい。

その学習指導計画とは、「身近な地域のなかの武田信玄」である。この学習指導計画は、山梨県内とりわけ国中<sup>5)</sup>と呼ばれる地域の中学校での実施を想定して作成されている。現在の山梨における様々な事物（媒体・手段）による武田信玄の取り扱いを生徒が分析検討する学習であり、その一環において武田信玄の領国支配とその背後の戦国時代の動向についての学習も組み込む。身近な地域のなかの歴史の学習を通して、身近な地域の過去の学習も可能にするものである。具体的な対象において前掲の先行研究と重なる面があるけれども、だからこそメタヒストリー学習としての論理の違いが明らかとなろう。この学習指導計画を通して、身近な地域のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の新たな可能性を示し、日本各地の中学校での「身近な地域の歴史」におけるメタヒストリー学習のための一つのモデルを提供したい。以下、Ⅱで、「身近な地域のなかの武田信玄」のねらいと基本設計について説明し、その上でⅢで、具体的な学習指導計画を提示し、最後にⅣで、その特質と意義を示そう。

## Ⅱ 「身近な地域のなかの武田信玄」のねらいと基本設計

「身近な地域のなかの武田信玄」は、中世単元に位置づき、メタヒストリーに基づいて「身近な地域の歴史」の学習を行うものである。山梨県内の中学校での実施を想定し、武田信玄という地元で英雄視されている歴史上の人物についての様々な事物（媒体・手段）による取り扱いを主題化している。他地域の中学校でそのまま実施することはできないけれども、当該地域で英雄視されている歴史上の人物に関する現在の扱いは主題として有効であろうし、「身近な地域のなかの武田信玄」はその学習のためのモデルとなろう。「身近な地域のなかの武田信玄」のねらいを示し、そのねらい

に応えるための基本設計について説明しよう。

「身近な地域のなかの武田信玄」の中心目標は、メタヒストリー学習としてのねらいである。身近な地域の様々な事物（媒体・手段）で武田信玄という歴史上の人物が取り扱われていることに気づくこと、それらは地域の歴史的なルーツやシンボルとして信玄をとらえる人物像、郷土愛・住民意識の喚起や充足、地域経済の振興や利潤の追求といった諸立場の目的とそのための人物利用の意図に基づくものであることがわかること、そのように歴史の為され方の論理構造を可視化し対象化するための分析視点を身に付けること、また、身近な地域のなかでの武田信玄の取り扱いの今後について考えてみることである。

「身近な地域のなかの武田信玄」では、メタヒストリー学習の一環において、ヒストリー学習を補助学習として組み込む。そのヒストリー学習での目標は、応仁の乱をきっかけにして戦乱や一揆が幾たびと起こり、下剋上の風潮が社会全体に広がった戦国時代、室町幕府の権威に頼らず、自らの実力によって領国とその領民を一元的に支配するために戦国大名は、それらを管理する独自の分国法をつくり、軍事力の強化とそれを支える経済的な発展を推進しようとしたこと、武田信玄はそのような戦国大名の一人であり、甲州法度之次第をつくったり、大規模な治水を行ったり、城下町を整備したりするなどし、甲斐国の支配を確立するとともに領域を拡げたことがわかることである<sup>6)</sup>。

このように「身近な地域のなかの武田信玄」は、メタヒストリー学習としての中心目標をもち、補助学習であるヒストリー学習の目標ももつ。そのような「身近な地域のなかの武田信玄」の基本設計は、表1の通りである。

表1の通り、「身近な地域のなかの武田信玄」は大きく3つの段階で構成される。第1段階では、「武田信玄ははるか昔の人物であるのに、その銅像が甲府駅前に建てられたのは、なぜでしょうか」という問いに取り組む。武田信玄公像という甲府駅前の銅像について取り上げ、信玄の領国支配とその背後の時代動向に関する考察を一環として組み込みつつ、信玄公像に関する分析を教師主導ですすめ、分析の基本視点を習得する。第2段階では、「身近な地域の歴史のなかで武田信玄が活躍した期間はほんの一時に過ぎないにも拘わらず、現在の山梨に武田信玄を利用しているモノやコトがたくさんあるのは、なぜでしょうか」という問いに取り組む。ホウトウの成り立ちを武田信玄に結びつける由来伝説、武田信玄の名前を使った山梨の観光土産品、武田氏の家紋である武田菱をモチーフにした県章・市章、武田信玄をイメージさせる観光PRマスコットキャラクターの武田菱丸、甲州軍団出陣を中心行事とする信玄公祭り、「こうふ開府500年」という記念事業におけるゲーム会社との提携によるサイトという6つの事物について取り上げ、前段階で習得した基本視点を適用して生徒主体で分析をすすめる。第3段階では、「今後もこれまでのように武田信玄を利用しつづけることに問題はあるでしょうか」という問いに取り組む。山梨における武田信玄という歴史上の人物の利用に関する以上の分析を踏まえ、武田信玄が様々な目的に従って様々な事物で扱われている現状について吟味検討する。

このような基本設計は、以下の5つの考えに基づいている。

第1は、学習の内容に関してであり、目標に基づき、身近な地域における武田信玄の様々な取り扱いの内容の理解、その理由や背景の認識、対応の判断を学習内容とすること、また、取り扱いの特色(C)、歴史上の事柄に対する見方(D)、社会のなかでの立場・目的やそれに基づく利用意図(W・B)というトゥールミン図式(D-W・B-C)を踏まえた分析の基本視点を学習内容とすることである。さらに、武田信玄の取り扱いの内容の理解の一環として、戦国大名としての武田信玄の領国支配と当時の時代動向についても学習内容とすることである。メタヒストリー学習としての学習内容とヒストリー学習としての学習内容の両方を生徒に学ばせることをねらう。

第2は、学習の過程に関してであり、武田信玄という歴史上の人物の取り扱いについての分析が

表1 「身近な地域のなかの武田信玄」の基本構成

段階	対象	考察		学習の内容	主な問い				
第1段階	武田信玄公像（銅像）における武田信玄の取り扱い	教師主導の分析	特色の確認	武田信玄ははるか昔の人物であるのに、その銅像が甲府駅前に建てられたのは、なぜでしょうか。	この銅像ははるか昔の人物であるのに、その銅像が甲府駅前に建てられたのは、なぜでしょうか。	この銅像は何ですか。	誰の銅像ですか。		
			Cの検討			この銅像とは誰ですか。いつ頃の人物ですか。	この銅像は武田信玄がどういう人物であるというイメージを私たちに与えるのでしょうか。		
		社会における構築の分析	Dの検討（ヒストリー学習手段化）			武田信玄公像はいつ、どこに、誰によって建てられ、誰が所有していますか。	この銅像では武田信玄をどういう人物と見なしているのでしょうか、それはどうしてでしょうか。	この銅像は武田信玄がどういう人物であるという理解に基づいてつくられていますか。	武田信玄を今日の山梨の歴史的なルーツとして英雄視する理解は適切なものでしょうか。
			W・Bの検討			武田信玄を山梨の歴史的なルーツとして英雄視することがどうして、銅像を甲府駅の駅前に建てることにつながるのでしょうか。	武田信玄を英雄視することは山梨では一般的ですが、それはどうしてでしょうか。	武田信玄公像を建てようと呼びかけた人たちの理由は何でしょうか。	武田信玄公像を建てるために寄付をした一般の人たちの理由は何でしょうか。
		分析視点の確認	武田信玄の領国支配と戦国時代の時代動向の認識			それらの理由と、県内外の多くの人たちが利用する甲府駅の駅前に武田信玄公像を建てたことには、どういう結びつきがあるのでしょうか。	武田信玄公が1960年代に建てられたのは、どうしてでしょうか。		
第2段階	その他の事物における武田信玄の取り扱い	生徒主体の分析	分析視点の適用による特色の確認と社会における構築の分析	身近な地域の歴史のなかで武田信玄が活躍した期間はほんの一時に過ぎないにも拘わらず、現在の山梨に武田信玄を利用しているモノやコトがたくさんあるのは、なぜでしょうか。	武田信玄公像について考えると着目した点を意識して、次の課題に取り組んでみましょう。それぞれの課題について、各グループから1人ずつが集まり、資料をもとに考え、ワークシートに整理した後、各グループにそれらの成果を持ち帰り、6つの事例からわかることは何かを考えましょう。	武田信玄公像について考えると着目した点を意識して、次の課題に取り組んでみましょう。それぞれの課題について、各グループから1人ずつが集まり、資料をもとに考え、ワークシートに整理した後、各グループにそれらの成果を持ち帰り、6つの事例からわかることは何かを考えましょう。	ホウトウが武田信玄に由来するものとまことしやかにいわれているのは、どうしてでしょうか。		
						山梨の観光土産品に武田信玄の名前がついたものが多いのは、どうしてでしょうか。			
						山梨の観光PRキャラクターが武田菱丸なのは、どうしてでしょうか。			
						山梨県の県章や甲府市の市章で武田菱が用いられたり、市町村合併で新しく誕生した甲州市の市章で武田菱が採用されたりしているのは、どうしてでしょうか。			
						毎年4月に武田信玄と関係のない甲府駅や甲府城の辺りで信玄公祭りが開催されるのは、どうしてでしょうか。	「こうふ開府500年」という記念事業で、ゲーム会社と提携したサイト「信玄公リターンズ」が設けられているのは、どうしてでしょうか。		
						これまで取り上げてきた事例から、どんなことがわかりますか。			
第3段階	様々な事物における武田信玄の取り扱い	社会にとっての影響と存続・改変の妥当性の吟味検討	武田信玄の取り扱いへの対応の判断	今後ともこれまでのように武田信玄を利用しつつけることに問題はありますか。	武田信玄を利用している多くのモノやコトは、山梨という地域や山梨に住む私たちにとって、どのような影響をもたらしているのでしょうか。	武田信玄が山梨の歴史的なルーツやシンボルと理解されているから利用されているのでしょうか、武田信玄がさまざまなモノやコトで利用されているから山梨の歴史的なルーツやシンボルと理解されているのでしょうか。	そのような影響をどのように評価づけますか。		
						そのように評価づけたときに大事にしたことはどういったことですか。			

ら、様々な事物で武田信玄が利用されている現状についての吟味検討へと展開させること、また、武田信玄の取り扱いについての分析では、教師主導の分析による分析視点の習得から、その視点の適用による生徒主体の分析へと段階的にすすめることである。分析の視点を習得する第1段階から、それを適用して分析する第2段階、さらに分析を踏まえて吟味検討する第3段階へと学習を3段階で組織する。

第3は、学習の対象に関してであり、分析視点を習得する段階では、政治的側面と経済的側面について読みとりやすい事例として、武田信玄公像という銅像<sup>7)</sup>を取り上げること、視点を適用して分析する段階では、伝説<sup>8)</sup>、土産品、シンボル、マスコットキャラクター、祭り<sup>9)</sup>、記念事業という多様な領域の事物を事例として取りあげること、分析を踏まえて吟味検討する段階では、そのような様々な事物における武田信玄の利用を対象とすることである。主要な諸側面を読みとりやすい事例に基づく分析視点の習得、多様な領域の様々な事例に基づく分析視点の適用をねらう。

第4は、学習の方法に関してであり、分析視点を習得する第1段階では、歴史上の事柄に関する取り扱いの特色(C)から、それをうみだしている歴史上の事柄に対する見方(D)、社会のなかでの立場・目的やそれに基づく利用意図(W・B)へと順次、教師が投げかける問いの展開にそって分析をすすめること、視点を適用して分析する第2段階では、ジグソー法の形式を取り入れ、それぞれの事物について、各グループから1人ずつが集まり、資料をもとに分析した後、個々の成果を各グループに持ち帰って互いに報告し、それらの分析結果からわかることは何かを話し合うことである。教師主導であれ、生徒主体であれ、実際に分析することでは違わないし、分析のための視点も共通しているが、その習得と適用とで学習の方法を異ならせる。

第5は、このような学習におけるメタヒストリー学習とヒストリー学習の関係に関してであり、全体としてメタヒストリー学習を基軸とし、第1段階のなかで銅像の場合における歴史上の事柄に対する見方を分析する一環として、武田信玄の領国支配と時代動向に関するヒストリー学習を行い、また、第2段階において個々の事物を分析するために、そのヒストリー学習の成果を活用することである。メタヒストリー学習における過去の取り扱いの分析のためにヒストリー学習を手段化し、両学習をメタヒストリー学習中心で統合する。

このような基本的な考えに基づき、「身近な地域のなかの武田信玄」は設計されている。それは戦国時代の学習に「身近な地域の歴史」の学習を付加するものではないし、ヒストリー学習の発展学習としてメタヒストリー学習を位置づけるものでもない。「身近な地域の歴史」の学習を通して戦国時代の学習を可能にするものである。これと別個に戦国時代の学習を行う必要はなく、戦国時代の学習に代替しうるものである。そのような身近な地域の過去について取り組むヒストリー学習を身近な地域のなかの歴史について取り組むメタヒストリー学習の一環に位置づけるものでもある。それはまた、以降の歴史学習においても生徒がメタヒストリーの視点をもちながら学習に取り組むための足がかりとなるものといえよう。

### Ⅲ 「身近な地域のなかの武田信玄」の学習指導計画

「身近な地域のなかの武田信玄」は、中学校の生徒が地元で英雄視されている歴史上の人物の業績とその背後の時代動向もとらえつつ、その特定の人物を扱った現在の様々な事物(媒体・手段)について分析検討するものであり、ヒストリー学習を一環とするメタヒストリー学習である。そのような「身近な地域のなかの武田信玄」の具体的な学習指導計画を表2として示そう。

表2 「身近な地域のなかの武田信玄」の学習展開

段階	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
第1段階	◎この銅像は何ですか。	T：発問する	①	
	○誰の銅像ですか。	T：発問する S：資料を見て、答える	①	・武田信玄の銅像（「武田信玄公像」と呼ばれている）。
	○武田信玄とは誰ですか。いつ頃の人物ですか。	T：発問する S：答える		・武田信玄は戦国時代に今の山梨県にあたる甲斐国を治めた武将である（16世紀の人物で、没後400年以上が経っている）。
	・この銅像が武田信玄の銅像であるとしてどうしてわかるのですか。	T：発問する S：答える	①	・白い毛（兜蓑）のついた兜（諏訪法性兜）をかぶっている。 ・右手に軍配を持っている。 ・兜や鎧に武田菱という家紋がついている。 ・白い毛のついた兜と軍配は、武田信玄を表すトレードマークと理解されている。武田菱は甲斐武田家の家紋であるが、信玄と結びつけて用いられることが多い。
	・この武田信玄公像を見たことはありますか。	T：発問する S：答える	①	・実物を見たことがある。 ・テレビ番組で見たことがある。 など
	○武田信玄公像は台座を含めると約6mもありますが、この銅像は武田信玄がどういう人物であるというイメージを私たちに与えるのでしょうか。	T：発問する S：答える	①	・像の大きさや高さ、像の表情や身なりにより、強い武将、たくましい指導者、偉大な英雄、また、皆を見守っている人物などというイメージを与える。
	○銅像の銘板によれば、武田信玄公像はいつ、どこに、誰によって建てられ、誰が所有していますか。	T：発問する S：資料をもとに答える	②	・1968年に鋳入れが行われ、1969（昭和44）年4月12日（武田信玄の命日）に除幕式が行われた。 ・武田信玄公像は甲府駅の駅前（南口）に建てられた（当初は駅前の中央分離帯に建てられたが、駅前の再開発の際に駅前の広場に移された）。 ・当時の山梨県知事、山梨放送会長、甲府市長、山梨県経営者協会会長といった山梨県の政財界の人物らを中心とする武田信玄公奉賛会が呼びかけ、多くの人たちの寄付によって建てられた。 ・武田信玄公奉賛会から甲府市に寄贈され、甲府市が所有している。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     武田信玄はるか昔の人物であるのに、その銅像が甲府駅前に建てられたのは、なぜでしょうか。                 </div>	T：課題を提示する S：予想する		・有名な人物だから。 ・郷土の英雄だから。 ・教科書に載っているほどの戦国時代の代表的な武将だから。 ・山梨の歴史に大きな功績をのこした人物だから。 ・有名な人物、郷土の英雄、戦国時代の代表的な武将、山梨に大きな功績をのこした人物であるとしても、だからといってどうして銅像が建てられたのだろう……。	
◎この銅像では武田信玄をどういう人物と見なしているのでしょうか、それはどうしてでしょうか。	T：発問する			

中学校歴史教育におけるメタヒストリーに基づく「身近な地域の歴史」の学習

<p>○銅像の銘板によれば、この銅像は武田信玄がどういう人物であるという理解に基づいてつくられていますか。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに答える</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「甲斐の生んだ乱世の智将」，「ただ戦略にひいできていたばかりでなく、その民政においても抜群の力量を示し、甲斐の国こんにちの基礎を築かれた偉大な英雄」と銘板に記されている</li> <li>・武田信玄を今日の山梨の歴史的なルーツとして英雄視している。</li> </ul>
<p>○武田信玄を今日の山梨の歴史的なルーツとして英雄視する理解は適切なものでしょうか。</p>	<p>T：発問する</p>	<p>(・自分もそう思っていたが、どうなのだろう……。)</p>
<p>・銘板に記されているように、武田信玄は「甲斐の生んだ乱世の智将」，「戦略にひいできていた」といえますか。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに答える</p>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄は、乱世の戦国時代に、甲斐国の甲府に拠点をおき、四方の他国に領地を拡げた。</li> </ul>
<p>・武田信玄のように、戦国時代に室町幕府の支配から離れ、全国各地で独自の支配を確立した大名は、何と呼ばれますか。他にどのような人物がいましたか。</p>	<p>T：発問する S：教科書で確認し、答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦国時代に室町幕府の支配から離れ、全国各地で独自の支配を確立した大名は、戦国大名と呼ばれる。</li> <li>・各地の戦国大名として、大友氏、島津氏、毛利氏、浅井氏、今川氏、北条氏、上杉氏などが挙げられる。</li> </ul>
<p>・武田信玄は現在の長野県北部や静岡県では侵略者として見られる傾向があるそうですが、それはどうしてでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに答える</p>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄は現在の長野県や静岡県に攻め込み、領域を拡げた。</li> <li>・甲斐国を治め、さらに領域をのぼしたということは、戦いに強かったことを意味する。</li> </ul>
<p>・武田信玄は勝ちも多いが、引き分けも多く、負けも数度経験していますが、ある武将に唯一勝ったことで知られています。誰に唯一勝ったことがあるか知っていますか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄は徳川家康に唯一勝ったことがある武将とされる。</li> </ul>
<p>・民政とは人々の幸せのための政治という意味ですが、武田信玄は「民政においても抜群の力量を示し」たといえますか。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに答える</p>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信玄堤をつくった。(信玄堤という呼称は江戸時代以降のものである。また、信玄の時代に整備されたのは信玄堤と現在呼ばれている堤防の一部である。)</li> <li>・甲州金をつくった。</li> <li>・父親の武田信虎につづき、甲府の城下町を整備した。</li> <li>・家臣団の統制・団結の強化によって戦時体制を整備した。</li> <li>・甲州法度之次第(信玄家法)をつくった。 など</li> </ul>
<p>・武田信玄がとった政策を他の戦国大名と比べると、何か違いがありますか。</p>	<p>T：発問する S：教科書を参考に答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄だけでなく、戦国大名たちは、家臣の武士たちと領国の農民などを統一的に統制するため、分国法という独自の法を制定した。</li> <li>・武田信玄だけでなく、戦国大名たちは、領国を経済的に豊かにすることで戦力を強化するため、治水・灌漑の工事や鉱山の開発を行ったり、城下町を建設・整備したりした。</li> </ul>
<p>・なぜ戦国大名はそのような政策をとる必要があったのですか。</p>	<p>T：発問する S：教科書を参考に答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15世紀半ばの応仁の乱をきっかけにして室町幕府の支配が大きく揺らぎ、戦乱や一揆が幾たびと起こり、下剋上の風潮が全国的にひろがった。元々が守護大名であったにしろ、守護大名の家臣であったにしろ、その地方の有力武士であったにしろ、戦国大名は実力で領国を支配し守らなければならなかった。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄を今日の山梨の歴史的なルーツとして英雄視する理解は適切なものでしょうか。</li> </ul> <p>○武田信玄を英雄視することは山梨では一般的ですが、それはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄のイメージは江戸時代以降につくられてきましたが、江戸幕府の初代将軍となる徳川家康に唯一勝った信玄が江戸幕府の支配した時代に好意的に受けとめられたのはどうしてでしょうか。</li> <li>・県内では今日でも、武田信玄を歴史的なルーツとしてとらえる傾向が強いですが、それはどうしてでしょうか。</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する</p> <p>T：発問する S：資料を読むで、答える</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦国大名は幕府の支配から離れ、外部の誰の力も頼らずに、荘園領主の支配を否定し、領国とその領民を一元的に支配するため、それらを管理する法を整えるとともに、軍事力の強化とそれを支える経済的な発展（富国強兵）を推進する必要があった。</li> <li>・甲斐国を治めた武田信玄は、富国強兵によって独自の支配を確立するとともに領域をのばした有力な戦国大名の一人である。</li> <li>・とはいえ、武田信玄が今日の山梨の歴史的なルーツとまでいえるのだろうか……。いろいろな考えがあるだろう。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄の戦い方が江戸幕府で尊重されるとともに、家康を成長させた人物として信玄が神格化され、江戸時代以降、様々な物語や絵などを通じて武田信玄のイメージがつけられていった。</li> <li>・今の山梨県の地域は江戸時代の殆どの時期に幕府の直轄地とされていたこともあり、この地域には武田信玄ほどに有名な歴史上の人物はいないため、江戸時代以降につくられてきたイメージに従って地域の歴史のシンボルとして扱い、歴史的なルーツととらえる傾向が強い。</li> </ul>
<p>◎武田信玄を山梨の歴史的なルーツとして英雄視することがどうして、銅像を甲府駅の駅前に建てることにつながるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄公像を建てようと呼びかけた人たちはどういう人たちですか。</li> </ul> <p>○武田信玄公像を建てようと呼びかけた人たちの理由は何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理由について、銘板にはどのように記されているでしょうか。</li> <li>・銅像によって武田信玄やその業績を讃えることと、よりよい山梨をつくっていこうという気持ちを地域の住民に促すことには、どういうつながりがあるのでしょうか。</li> </ul>	<p>T：発問する</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する</p> <p>T：発問する S：資料をもとに答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県や甲府市のリーダー的な人たちが建立を呼びかけた。</li> <li>・「この崇高な人物をたたえ、遺徳をしのいで、よりよい山梨の建設に直進しようとする意気を高揚する」と銘板に記されている。</li> <li>・銅像を建て、地域の歴史的なルーツとしての武田信玄やその業績を讃えることにより、武田信玄という英雄を誕生させたとともに武田信玄がうみだした地域として郷土をとらえ、その一員であるという誇り、そうした自分たちの郷土の発展のために尽力していこうという自覚を住民に持ってもらいたいと考えた。</li> </ul>

中学校歴史教育におけるメタヒストリーに基づく「身近な地域の歴史」の学習

<p>・そのような考えは、どうい うねらいに基づいているので しょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・よりよい地域づくりをすす めていくために住民の郷土 愛・住民意識を呼び起し たいというねらいが根底に ある。</p>
<p>・武田信玄公像を建てた理 由は、それだけでしょうか。 当時の新聞から読み取って みましょう。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに答える</p>	<p>⑤ ・武田信玄公像を「県都の 新名所」にしたいという発 言が新聞で取りあげられて いる。</p>
<p>・「県都の新名所」にしたい とはどういうことですか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・山梨の歴史的なルーツとし て英雄視されている武田 信玄の銅像を建てることで 、山梨を武田信玄の地域 としてアピールし、県内外 から観光客を呼び寄せたい と考えている。</p>
<p>・そのような考えは、どうい うねらいに基づいているので しょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・観光によって地域の経済を 盛んにしたいというねらい が根底にある。</p>
<p>○武田信玄公像を建てるた めに寄付をした一般の人た ちの理由は何でしょうか。</p>	<p>T：発問する</p>	
<p>・寄付をした人たちのなか には観光関係やサービス業 を含め、さまざまな業者の 方たちがいますが、その 方たちはどうして寄付し たのでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・山梨の歴史的なルーツとし て武田信玄を英雄視して おり、そのような人物の 銅像を建て、武田信玄の 地域としてアピールするこ とにより、観光客が増え れば、また、それによつ て山梨の経済が発展すべ ば、自分の仕事の儲けに つながるだろうと考えた のではないかと。</p>
<p>・そのような考えは、どうい うねらいに基づいているので しょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・経済的な利潤をあげたい という地域で経済活動を 営む人たちのねらいが根 底にあるのではないかと。</p>
<p>・寄付をした人たちは業者 の方たちばかりではあり ませんが、どうして寄付 したのでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・山梨の歴史的なルーツとし て武田信玄を英雄視して おり、そのような武田 信玄を誕生させたことに 武田信玄をうんだ地域 への郷土愛や地域の員 としての住民意識・自 尊心をもっている人た ちは、銅像を建てて 信玄を讃えることで、 地域や自分たちも讃 えることができると考 えたのではないかと。 寄付をした業者のなか にも、山梨の業者とし ての意識・自尊心から 同じように考えた方た ちもいたのではないかと。</p>
<p>・そのような考えは、どうい うねらいに基づいているので しょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・自らの郷土愛・住民意 識を満たしたいという 住民の人たちのねらい が根底にあるのではない かと。</p>
<p>○それらの理由と、県内外 の多くの人たちが利用 する甲府駅の駅前に 武田信玄公像を建てた ことには、どうい う結びつきがある のでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<p>・県内外の多くの人た ちが利用する甲府駅 の駅前に武田信玄公 像を建てることで、郷 土愛・住民意識を呼 び起こすこと、郷土 愛・住民意識を満た すこと、観光客を呼 び寄せて地域経済の 振興を図ること、 経済的な利潤をあげ ることが一層可能に なると考えた。</p>
<p>○武田信玄公像が1960 年代に建てられたのは どうしてでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：資料をもとに 答える</p>	<p>⑥ ⑦ ・当時、NHKの大河 ドラマなどの影響で 信玄ブームが起こり、 山梨県内だけでなく 全国的にも武田信玄 への関心が高まってい た。 ・交通の整備がすす められ、観光客を呼 び寄せるための目玉 づくりが目指されて いた。 ・そのような状況下 において、郷土愛・ 住民意識を呼び起 こす、郷土愛・住民 意識を満たす、観 光客を呼び寄せて 地域経済の振興を 図る、経済的な利</p>

	<p>武田信玄ははるか昔の人物であるのに、その銅像が甲府駅前に建てられたのは、なぜでしょうか。</p> <p>・ 寄贈された甲府市は武田信玄公像をどのように扱っているか、新聞で確認しましょう。</p> <p>・ 今も甲府市役所の職員が年末に大掃除をするなど、武田信玄公像が大切にされているのは、どうしてでしょうか。</p> <p>◎武田信玄公像について考える上で、どんな点に着目しましたか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：新聞を読んでも、答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	<p>潤をあげるといふねらいに基づき、銅像の建立による武田信玄の利用が意図された。</p> <p>・ 戦国時代に甲斐を治めた武田信玄は、富国強兵によって独自の支配を確立するとともに領域を拡大した有力な戦国大名の一人であり、地域の歴史的なルーツとして英雄視されている。</p> <p>・ 信玄ブームが起こり、武田信玄への関心が高まるとともに、交通が整備され、観光客を呼び寄せる目玉づくりが目指される中、英雄らしい姿をした信玄の銅像を甲府駅の駅前に建て、多くの人の目に触れられるようにすることにより、住民の郷土愛・住民意識を呼び起こそう、多くの観光客を呼び寄せて地域経済を盛んにしようとするリーダー的な人たちが考えたり、自らの郷土愛・住民意識を満たそう、経済的な利潤をあげようと一般の人たちが考えたりした。</p> <p>・ 郷土愛・住民意識を呼び起こすこと、地域経済を盛んにすること、また、郷土愛・住民意識を満たすこと、経済的な利潤をあげることのために、武田信玄という歴史上の人物が利用された。</p> <p>⑧ 毎年、年末に、甲府市役所の職員が武田信玄公像の大掃除をするなど、寄付されて以降、大切に管理されている。</p> <p>・ 郷土愛・住民意識を呼び起こすこと、地域経済を盛んにすること、また、郷土愛・住民意識を満たすこと、経済的な利潤をあげることのために、甲府市では武田信玄公像が大切にされている。</p> <p>・ 武田信玄（歴史上の事柄）をどう扱ったり表現したりしているか（C）</p> <p>・ 武田信玄（歴史上の事柄）についてどうとらえているか（D）</p> <p>・ そのようにとらえる武田信玄（歴史上の事柄）をどう利用しようとしているか（W）</p> <p>・ そうした武田信玄（歴史上の事柄）の利用の根底にはどういうねらいがあるか（B）</p>
<p>第2段階</p>	<p>・ 武田信玄の銅像の他に、現在の身近な地域の中で、武田信玄を利用していると思われるモノやコトに何がありますか。</p> <p>身近な地域の歴史のなかで武田信玄が活躍した期間はほんの一時に過ぎないにも拘わらず、現在の山梨に武田信玄を利用しているモノやコトがたくさんあるのは、なぜでしょうか。</p> <p>◎武田信玄公像について考えるときに着目した点を意識して、次の課題に取り組んでみましょう。</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：課題を提示する</p> <p>T：課題の解決の進め方を説明する</p>	<p>・ ホウトウの由来伝説、土産品の名称、マスコットキャラクター、県章・市章、信玄公祭り、こうふ開府500年事業、ヴァンフォーレ甲府のチーム名、甲府市の歌、企業の名前、隠し湯、マンホール、ガードポール、地名、ゲーム、マンガ……、</p>

それぞれの課題について、各グループから1人ずつが集まり、資料をもとに考え、ワークシートに整理した後、各グループにそれらの成果を持ち帰り、6つの事例からわかることは何かを考えましょう。

A ホウトウが武田信玄に由来するものとまことしやかにいわれているのは、どうしてでしょうか。

B 山梨の観光土産品に武田信玄の名前がついたものが多いのは、どうしてでしょうか。

C 山梨の観光PRマスコットキャラクターが武田菱丸なのは、どうしてでしょうか。

D 山梨県の県章や甲府市の市章で武田菱が用いられ、市町村合併で新しく誕生した甲州市の市章で武田菱が採用されているのはどうしてでしょうか。

E 毎年4月に武田信玄と関係のない甲府駅や甲府城の辺りで信玄公祭りが開催されるのは、どうしてでしょうか。

F 「こうふ開府500年」という記念事業で、ゲーム会社と提携したサイト「信玄公リターンズ」が設けられているのは、どうしてでしょうか。

S：それぞれの課題について、各グループから1人ずつが集まり、資料をもとに考え、ワークシートに整理する

S：それらの成果を各グループに持ち帰り、互いに紹介する

S：6つの事例からわかることは何かを話し合う

⑨

Aについて(例)

- ・ホウトウには陣中食説や伝家の宝刀説など、武田信玄に関連づける誤った由来伝説がある。
- ・武田信玄は山梨の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されている。
- ・そのような武田信玄と結びつけて、ホウトウを山梨の郷土料理として観光客向けに紹介するようになり、書物やテレビ番組などの影響もあって由来伝説が生まれた。
- ・観光食としてホウトウを広めることで、経済的な利潤をあげたい、地域経済の振興を図りたいというねらいが根底にある。

⑩

Bについて(例)

- ・山梨の観光土産品には、武田信玄と関係がないにも拘わらず、その名前を使ったものが多い。それらは山梨(山梨の歴史)といえれば武田信玄という印象を与えている。
- ・武田信玄は山梨の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されている。
- ・山梨を代表する土産品になるようにという願いを込めて、また、山梨ならではの土産品として買ってもらうため、そのような信玄の名前を土産品に使った。
- ・土産品をたくさん売ることによって経済的な利潤をあげたいというねらいが根底にある。

⑪

Cについて(例)

- ・山梨の観光PRマスコットキャラクターは武田信玄をモチーフにした武田菱丸である。このキャラクターは信玄のトレードマークとされるものを身に付け、親しみやすいイメージを表現している。
- ・武田信玄は山梨の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されている。
- ・観光推進機構はそのような武田信玄の地域として山梨を特色づけ、県外の人たちに山梨を認知してもらうために、武田信玄をモチーフにしたマスコットキャラクターを観光PRで用いている。
- ・多くの観光客を呼び寄せ、地域経済の振興を図りたいというねらいが根底にある。

⑫

Dについて(例)

- ・甲斐武田家の家紋が県のシンボルである県章や市のシンボルである市章のデザインに利用されている。自分たちの県や市は武田信玄にゆかりがあるということが表されている。

<p>○武田信玄公像も含め、これまでに取りあげてきた事例から、どんなことがわかりますか。</p> <p>・武田信玄を利用した多くのモノやコトによって、武田信玄や身</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄は自らの県あるいは自らの市の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されている。</li> <li>・武田信玄の家紋をシンボルのモチーフにすることで、武田信玄という英雄と関わりのある地域ととらえ、その一員であるという誇り、自分たちの地域の発展のために尽力していこうという自覚を住民に促そうと考えた。</li> <li>・住民の郷土愛・住民意識を呼び起こしたいというねらいが根底にある。</li> </ul> <p>Eについて（例）</p> <p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年4月に甲府駅や甲府城の辺りで信玄公祭りが開催され、武者行列などが行われる。武田信玄や武田軍の強さや勇ましさが武者行列で表現されている。</li> <li>・武田信玄は山梨の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されている。</li> <li>・そのような武田信玄を題材にした祭りを開催することにより、武田信玄の地域として特色づけ、多くの観光客を呼び寄せるとともに、武田信玄を誕生させたとともに武田信玄がうみだした地域の一員であるという誇り、自分たちの地域の発展のために尽力していこうという自覚を促したいと考えた。</li> <li>・多くの観光客を呼び寄せて地域経済の振興を図りたい、住民に郷土愛・住民意識を呼び起こしたいというねらいが根底にある。</li> </ul> <p>Fについて（例）</p> <p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こうふ開府500年」という甲府市の記念事業で、ゲーム会社と提携したサイト「信玄公リターンズ」が設けられ、ゲームのキャラクターが使用されている。武田信玄はゲームの強く格好良い武将のキャラクターで表現されている。</li> <li>・武田信玄は甲府の歴史的なルーツやシンボルとして英雄視されており、戦国有数の戦いに強い武将ととらえられている。</li> <li>・そのようなプロモーションサイトを設けることで国内外の多くのゲームユーザーをサイトへ呼び寄せ、この記念事業や甲府を宣伝し、観光に来てもらいたいと甲府市側は考え、この記念事業に興味をもってサイトを閲覧する多くの人にゲームを宣伝し、ゲームの販売を伸ばしたいとゲーム会社側は考えた。</li> <li>・地域経済を活性化したいというねらい（甲府市側）、自社の売り上げを伸ばしたいというねらい（ゲーム会社側）が根底にある。甲府市側とゲーム会社側の利害が一致しサイトが設けられた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの身近において、住民の郷土愛・住民意識を呼び起こすこと、地域の経済を盛んにすること、自らの郷土愛・住民意識を満たすこと、経済的な利潤をあげることといったねらいにより、武田信玄という歴史上の人物を利用したモノやコトが数多く存在している。</li> <li>・武田信玄を利用した多くのモノやコトによって、武田信玄や身近な地域の歴史、山梨についての県</li> </ul>
---	---	--



中学校歴史教育におけるメタヒストリーに基づく「身近な地域の歴史」の学習

<p>○そのように評価づけたときに大事にしたことはどういったことですか。</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の経済</li> <li>・地域住民のまとまり</li> <li>・地域の歴史への興味関心</li> <li>・伝説と史実の区別</li> <li>・住民個々人の自由な見方</li> <li>・健全な郷土愛・住民意識</li> <li>・行政の役割 など</li> </ul>
<p>今後もこれまでのように武田信玄を利用しつづけることに問題はあるでしょうか。</p>	<p>T：発問する S：意見交換する</p>	<p>(略)</p>
<p>・他の地域でも歴史上の人物や出来事などを利用したモノやコトが存在しているのか、他の地域に行くことや他の地域を調べることがあったら、意識してみましよう。また、自分の身のまわりに武田信玄以外にも歴史上の事柄を利用しているモノやコトはあるか、どういうねらいでどう利用しているか、その利用は適切なものといえるか、授業後に自分で考えてみましょう。</p>	<p>T：自主探究を促す</p>	

〔資料〕

- ① 「武田信玄公像」(写真, 筆者撮影)
- ② 「武田信玄公像・銘鋌」(写真, 筆者撮影)
- ③ 山梨県教育委員会編集・発行『ふるさと山梨中学校版』, 2008年, pp. 30-31
- ④ 「甲陽軍鑑の成立」, 山梨県立博物館編集・発行『よみがえる武田信玄の世界』, 2006年, pp. 100-101
- ⑤ 「山梨躍進の象徴に 信玄公銅像建立地でクワ入れ式」, 『山梨日日新聞』1968年4月9日朝刊(10面)
- ⑥ 「大河ドラマ一覧」, NHKホームページ (<https://www.nhk.or.jp/segodon/taiga/>)
- ⑦ 「年表」, 飯田文弥ほか『山梨県の歴史』, 山川出版社, 1999年, p. 25をもとに筆者作成
- ⑧ 「信玄公像すっきり」, 『朝日新聞』2017年12月20日朝刊山梨全県版(31面)
- ⑨ 影山正美「観光食ホウトウの誕生」, 山梨県編集・発行『山梨県史民俗編』, 2003年より一部抜粋
- ⑩ 「信玄餅に秘められた誕生と成長の意外な事実」, 『東洋経済ONLINE』<https://toyokeizai.net/articles/-/108933>
- ⑪ 「『富士の国やまなし観光キャラバン隊長』武田菱丸」, やまなし観光推進機構『富士の国やまなし観光ネット』(<https://www.yamanashi-kankou.jp/kankou/event/takeda-hishimaru.html>)
- ⑫ 「山梨県のシンボル」, 山梨県ホームページ (<http://www.pref.yamanashi.jp/miryoku/shokai/symbole.html>)  
「甲府市の市章」, 甲府市ホームページ (<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/koho/shise/gaiyo/profile/shisho.html>)  
「市の概要」, 甲州市ホームページ ([https://www.city.koshu.yamanashi.jp/shisei/koshu\\_gaiyo/detail%E5%B8%8D](https://www.city.koshu.yamanashi.jp/shisei/koshu_gaiyo/detail%E5%B8%8D))
- ⑬ 「第47回信玄公祭り」(ポスター), 『第47回信玄公祭り』(公式ガイドブック), やまなし観光推進機構, 2018年
- ⑭ 「2019 こうふ開府500年 信玄公リターンズ」(こうふ開府500年記念事業関連サイト <http://www.kofushingen.jp/>)  
こうふ開府500年記念事業公式ホームページ (<https://www.kofu500.com/>)

〔学習指導計画作成上の参考文献〕<sup>10)</sup>

- ・磯貝正義『図説山梨県の歴史』, 河出書房新社, 1990年
- ・及川祥平『偉人崇拜の民俗学』, 勉誠出版, 2017年
- ・萩原三雄編著『武田信玄謎解き散歩』, KADOKAWA, 2015年
- ・本郷和人『武士とはなにか』, 角川学芸出版, 2013年
- ・森岡清志編『地域の社会学』, 有斐閣, 2008年
- ・平山優監修『風林火山』, サンニチ印刷(風林火山プロジェクト), 2006年

- ・山梨県編集・発行『山梨県史民俗編』, 2003年(特に, 第三編第一章第三節及び第三章第三節)
- ・山梨県立博物館編集・発行『よみがえる武田信玄の世界』, 2006年

## IV おわりに——メタヒストリー学習の新たな可能性——

中学校歴史学習としての「身近な地域のなかの武田信玄」の特質は、次の8点にまとめられる。第1は、過去について取り組むヒストリー学習ではなく、過去を扱った既存の歴史、そのなかでも一般の人々のパブリックな領域における既存の歴史について取り組むメタヒストリー学習であることである。第2は、そのような社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習のなかでも、身近な地域の過去について扱った既存の歴史、すなわち、身近な地域のなかの歴史に関するメタヒストリー学習であることである。第3は、過去の事柄を扱った特定の事物(媒体・手段)に関するメタヒストリー学習ではなく、過去の特定の事柄を扱った様々な事物(媒体・手段)に関するメタヒストリー学習であることである。第4は、教師主導の分析だけに留めず、生徒主体の分析にあたらせること、そのために教師主導の分析を通して基本視点を習得させることである。第5は、先行のヒストリー学習を前提にしてメタヒストリー学習へ移行させるのではなく、メタヒストリー学習において既存の歴史を分析するための手段としてヒストリー学習を組み込み、メタヒストリー学習とヒストリー学習をメタヒストリー学習中心で統合することである。第6は、手段として組み込むヒストリー学習において、地方史レベルの過去の学習とともに国家史レベルの過去の学習を可能にすることである。第7は、既存の歴史の分析に比重をおきつつも、さらに吟味検討へと学習を展開させることである。第8は、歴史的分野の学習でありながら、過去についてではなく現在についての学習を基本とすることである。

このような「身近な地域のなかの武田信玄」は、「身近な地域の歴史」の学習を単なる地方史の学習にせず、また国家史の学習も可能にするけれどもヒストリー学習には留めず、ヒストリー学習を一環とするメタヒストリー学習を基幹とするものである。それは、現在の身近な地域における歴史の為され方を生徒が分析検討するという地域探究としての新たな「身近な地域の歴史」の学習を可能にする。身近な地域のなかで英雄視されている歴史上の人物の取り扱いに関する学習の一つのモデルとなりうるものであり、「身近な地域の歴史」の学習の新たな可能性を示すとともに、メタヒストリー学習の新たな可能性を示すものである。

歴史授業の改善をヒストリー学習の枠内だけですすめようしても限界がある。社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習という新たな枠組みを採用することにより、歴史授業の改善を大きくすすめることができるようになる<sup>11)</sup>。「身近な地域のなかの武田信玄」はヒストリー学習を包摂するメタヒストリー学習としての「身近な地域の歴史」の学習が可能であることを示している。現在の社会の認識や新たな形成のために社会のなかの歴史について探究できるようにする歴史授業の在り方をさらに追求していく必要がある。

### 註

- 1) 社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の基本的な構造と意義については、服部一秀「社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の意義—ドイツの歴史教科書『歴史と出来事—テューリンゲン州版』を手がかりにして—」, 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号, 2016年, 同「年代史的カリキュラムにおいて過去の取り扱いの探究能力を育成する方略—ザクセン・アンハルト州中等学校の2012年版歴史科の場合—」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究』No. 123, 2014年, 参照。

- 2) 服部一秀「社会における過去の取り扱いの時間的空間的対比に基づく分析検討」、『社会科教育』No. 680, 明治図書, 2015年12月号, p. 101。
- 3) 2008年版中学校学習指導要領においても、また、2017年版中学校学習指導要領においても、内容項目「身近な地域の歴史」が設定され、個々の時代の学習のなかで適宜、地域の過去の事柄について取り上げることが要求されている。
- 4) 服部一秀・細入はるか・王瀝彬「現代社会における過去の取り扱いを探究する中学校歴史授業－「信玄公祭り」－」, 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』No. 19, 2014年。
- 5) 斎藤典男「国中」, 山梨日日新聞社編集・発行『山梨百科事典〈増補改訂版〉』, 1989年, p. 292によれば、御坂山地と大菩薩峠の山地を境にして山梨県を二大別する場合、甲府盆地を中心とする西半分の地域が国中と呼ばれている。国府がおかれてから甲斐国の中心であったために国中という呼称が生まれたのではないかとされる。
- 6) この目標の設定に際しては、歴史的分野の教科書『新編新しい社会歴史』東京書籍、『中学社会歴史未来をひらく』教育出版、『中学歴史日本の歴史と世界』清水書院、『社会科中学生の歴史日本の歩みと世界の動き』帝国書院、『中学社会歴史的分野』日本文教出版、『新版新しい歴史教科書』自由社、『新編新しい日本の歴史』育鵬社、『ともに学ぶ人間の歴史』学び舎（何れも2015年検定済）も参考にした。
- 7) 銅像の教材化について取りあげている論考として、原田智仁「歴史リテラシーの可能性（七）」, 文部科学省『中等教育資料』2004年4月号, 藤瀬泰司「見ているようで見ていないモノを撮る－マンホールと銅像の教材化」, 『社会科教育』No. 653, 明治図書, 2013年9月号, 石川照子「“近代の日本と世界”にかかわる面白ウラ話」, 『社会科教育』No. 667, 明治図書, 2014年11月号, など。
- 8) ホウトウの由来伝説の教材化に取り組んでいる論考として、小澤雄『小学校社会科における地域伝説学習の必要性と可能性』（山梨大学卒業論文）, 2014年1月提出。
- 9) 歴史祭りとしての信玄公祭りに関するメタヒストリー学習の授業開発研究として、服部一秀・細入はるか・王瀝彬, 前掲論文（2014）。
- 10) この学習指導計画の作成にあたって、註6に挙げた歴史的分野の教科書における戦国時代についての記述も参照した。
- 11) 例えば、服部一秀・浅尾和世・神戸博貴「身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元－主題としての紙幣」, 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』No. 23, 2018年, 服部一秀・小笠原咲「小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い－安土桃山時代単元の場合」, 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』No. 23, 2018年, 服部一秀「社会問題学習としての社会科－小学校ではどうするか, 歴史教育ではどうするか」, 『社会科教育』No. 714, 明治図書, 2018年10月号, 他, 参照。

**付記** 本研究は、JSPS 科研費26381189の助成を受けたものである。